

## F腭臓がん7

対象疾患	腭臓がん	レジメン名	L-OHP+I-LV+CPT-11+5-FU療法 (FOLFIRINOX療法)		
1コースの期間(休薬期間含む)	14日				
総コース数	制限なし				
Rp.	薬剤名	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
1	生食100 mL (ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1
2	アプレピタント125 mg (day 1)、 80 mg (day 2~3) ※ホスアプレピタント未使用の場合	1 Cap	経口	/	day 1 (125 mg)、day 2~3 (80 mg)
3	生食100 mL デキサメタゾン6.6 mg パロノセトロン0.75 mg ホスアプレピタント150 mg ※アプレピタント未使用の場合	1 P 1 V 1 V 1 V	点滴静注		
4	デキサメタゾン4 mg	2 T	経口	/	day 2~4 (Max day 2~5)
5	オキサリプラチン(L-OHP) デキサメタゾン1.65 mg 5%ブドウ糖注射液250 mL	85 mg/m <sup>2</sup> 2 A 1 P	点滴静注	2時間	day 1
6	レボホリナート(I-LV) 生食250 mL	200 mg/m <sup>2</sup> 1 P	点滴静注	2時間	day 1
7	イリノテカン(CPT-11) 生食250 mL	180 mg/m <sup>2</sup> 1 P	点滴静注	90分	day 1
8	フルオロウラシル(5-FU) 生食50 mL	400 mg/m <sup>2</sup> 1 P	点滴静注	全開	day 1
9	フルオロウラシル(5-FU) 生食250 mL	2400 mg/m <sup>2</sup> ※備考欄参照	持続静注	46時間	day 1
10	生食50 mL (フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1
血管外漏出 リスク分類	L-OHP: 炎症性 CPT-11: 炎症性 5-FU: 炎症性				
催吐性リスク分類	レジメン全体: 高度 (L-OHP: 中等度 CPT-11: 中等度 5-FU: 軽度)				
インラインフィルターの 要不要	不要				
備考欄	<p>※NK<sub>1</sub>受容体拮抗薬は、ホスアプレピタント150 mg/dayをday 1またはアプレピタント125 mg/day (day 1、抗がん剤投与開始1時間~1時間30分前)、80 mg/day (day 2~3、午前中)のいずれかを投与する。</p> <p>※CPT-11は、I-LV投与開始30分後から投与開始する。その時点からCPT-11とI-LVは同時投与となる。</p> <p>※デキサメタゾン点滴静注の内3.3 mgは、L-OHPによる静脈炎予防のためL-OHPと混注する。</p> <p>※5-FUの持続静注分は、全量230 mLとなるように調製し、bolus投与後にインフューザーポンプを用いて投与開始し46時間かけて投与する。</p>				